Forex

株式会社　ジャパン
エコノミックパルス
〒103-0007
東京都中央区日本橋浜町
2-33-5
Tel 03-5962-3910
Fax 03-5962-3913
www.j-pulse.co.jp
info@j-pulse.info

Market Insight
2026年11月16日（月）

全般ドル高と非ドル安、持続と反動にらむ

FRB政策、円安抑止対応、AI株の行方など焦点

今週の為替相場は全般的なドル高・非ドル通貨安とドル/円でのドル底堅さ、クロス円への非ドル通貨安の波及余地（円高）について、持続性と逆方向への調整をにらんだ展開となる。週間予想はドル/円が158.00－161.00円、ユーロ/円が174.30－178.50円。前週は米FRB幹部によるインフレ警戒と利上げ強化支持の発言や、米物価指標の上振れなどで全般ドル高が後押しされた。今週はFRBの金融政策動向や、日米の当局による円安抑止対応、悪材料の続出で下落が続くAI関連株の行方などが焦点になる。

FRB利上げ強化観測と過度な織り込み後退に一喜一憂

今週の為替相場で注目されるのは、米FRBの金融政策動向だ。前週はFRBのウォラー理事がインフレ上昇リスクに警戒感を強め、12月の利上げ支持や物価上昇次第での0.5%の大幅利上げ検討の発言を行った。その他のFRB幹部からも、インフレ警戒と利上げ支持の発言が相次いでいる。さらに前週は米国の10月CPI（消費者物価指数）が予想を上回ったことも重なり、米国の先物市場では12月のほか、来年1月、3月などでの連続利上げを織り込む動きが進展した。為替相場では全般ドル高に振れている。

今週以降は、FRBの金融政策動向に一喜一憂となる。注目は日々の米経済指標やFRB幹部発言のほか、18日のFRB・FOMC議事録（10月27－28日開催分）などだ。

こうした材料により、利上げ強化観測が一段と強まる場面では、全般ドル高やドル安の抑制が見込まれる。ドル/円でもドルの底上げが支援されそうだ。ただし、前週にはドル高と対ドルでの非ドル通貨安により、クロス円取引では非ドル通貨の連れ安（円は上昇）場面が見られた。FRBの利上げ強化観測は米国株など世界株には悪材料となり、AI関連株の不安定化もあって、株安とリスク回避でクロス円では円高が観測されている。今週以降はドル/円でのドル高・円安と、クロス円での非ドル通貨安・円高の綱引きも焦点になる。

クロス円については、底堅い通貨と下落通貨で格差も見られている。主要通貨の対円スポット（直物）取引における通貨別成績ランキングでは、前週11月9日から16日アジア市場段階での上昇率上位に、韓国、中国、メキシコ、トルコ、カナダなどの各通貨が観測されている（各通貨に対して円は下落）。ドルに連動性のある通貨や、アジア通貨などが対円で打たれ強さを保っている状態だ。

反対に対円で下落率の大きい下落通貨には、南アフリカ、スウェーデン、ハンガリー、豪州、スイス、ポーランド、NZ、ノルウェー、ユーロ圏などの各通貨が観測されている（各通貨に対して円は上昇）。対ドルでの下落率が大きい通貨や利上げ余地狭まりの通貨などが、対円で下落の圧力が強い。

今週の為替相場ではFRBの利上げ強化織り込みに対して、後退の修正局面も想定される。その場合は全般ドル安となり、ドル/円もドル反落となりそうだ。一方でドルに対して、非ドル通貨が反発。FRBの利上げ強化観測の後退は米国株など世界株を支援するリスク選好となり、クロス円取引では非ドル通貨の連れ高と

WARNING! 記事並びに情報はすべて株式会社ジャパンエコノミックパルスに帰属しています。無断転載及び転送は法的に罰せられますのでご注意ください。

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-33-5 マリオン浜町ビル
TEL (03) 5962-3910　FAX (03) 5962-3913
E-Mail info@j-pulse.co.jp　URL http://www.j-pulse.co.jp
発行責任者：上坂　郁　　編集長：原田　祥二

円安という展開が注視される。その他の注目点は以下。

＜日米当局の円安抑止対応＞

為替相場のドル/円では、前週に9月上旬以来となる160円超え方向へのドル高・円安が進展となった。今年4月以降は160円超え前後から、日本の財務省・日銀や米国の財務省による円安抑止対応が強化されてきた。今回も日米の当局幹部による円安牽制発言の強化や、レートチェック、マスコミへのリーク報道による日銀の利上げペース加速の示唆、円安加速の場合の実弾介入などが注視される。

今週は16－19日にかけてフィリピン、中国で国際首脳会議が開催され、米国のトランプ大統領と日本の高市首相が揃って参加する。日米首脳の2者会談は流動的ながら、少しでも接触の機会があると、日米の財務省が円安抑止に利用する形で「日米の首脳は円の過小評価は問題と再確認した」といった報道がなされる可能性には注意を要する。

一方で今年6－7月の160円超えから164円接近のように、為替市場では介入等の政策対応を警戒しつつも、小刻みな回転売買により、「抜き足差し足」で164円方向のドル高・円安余地を試しに行く可能性も無視できない。

＜ドル/円、13・26週平均上抜け、角度も上向き＞

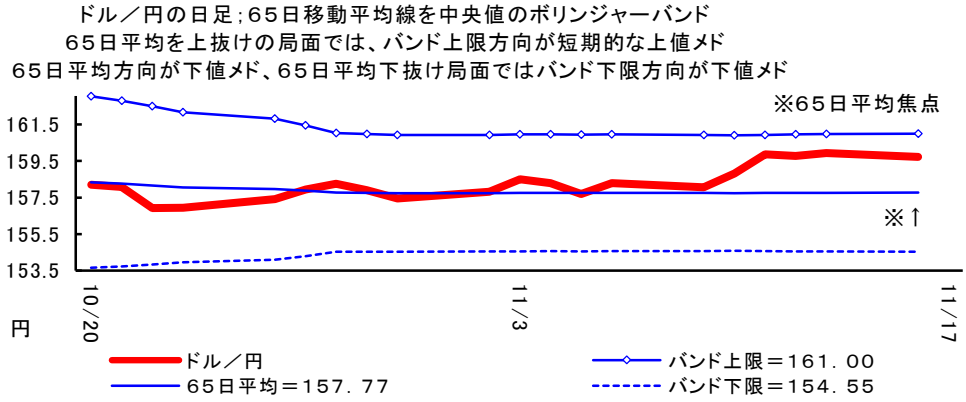
為替相場のドル/円は週足テクニカルで、昨春以降のドルの複数下値抵抗線について、上下動を経ながらも上抜け維持や回復ができるか。完全に下抜けていくかの攻防が続いている。前週末11月13日時点では、3カ月スパン、6カ月スパンの基調トレンドを示す13週と26週の移動平均線に対して、週末値がドル高方向に上回ってきた。方向性を示す角度も、13週と26週の移動平均線が揃って上向きに移行している。7月後半以来の同時現象で、同時期以来のドル高基調への回帰が示唆されている。

ブルームバーグのレートによると、前週末11月13日時点における下値抵抗ラインの数値は以下のようになっている。26週移動平均線159.12円、週足・一目均衡表の基準線158.44円、52週移動平均線158.18円、13週移動平均線157.69円、週足・一目均衡表の雲上限（先行スパン1）157.15円（今週も157.15円）、週足・一目均衡表の転換線156.79円、75週移動平均線155.22円など。

＜クロス円、週足の下値抵抗線攻防＞

為替相場のクロス円取引（円の対非ドル通貨相場）では、週足テクニカルで重要な外貨の下値抵抗線を維持できるか。完全に下抜けていくかの攻防が続いている。ブルームバーグのレートによると、前週末11月13日時点における下値抵抗ラインと数値は以下のようになっている。

ユーロ/円＝100週移動平均線175.30円、週足・一目均衡表の雲下限（先行スパン2）174.60円（今週は175.38円）、ポンド/円＝60週移動平均線210.73円、週足・一目均衡表の転換線210.33円、70週移動平均線209.02円、スイス・フラン/円＝90週移動平均線190.40円、週足・一目均衡表の雲下限（先行スパン2）188.95円（今週は189.28円）、100週移動平均線188.47円、カナダ・ドル/円＝週足・一目均衡表の転換線111.92円、75週移動平均線111.89円、80週移動平均線

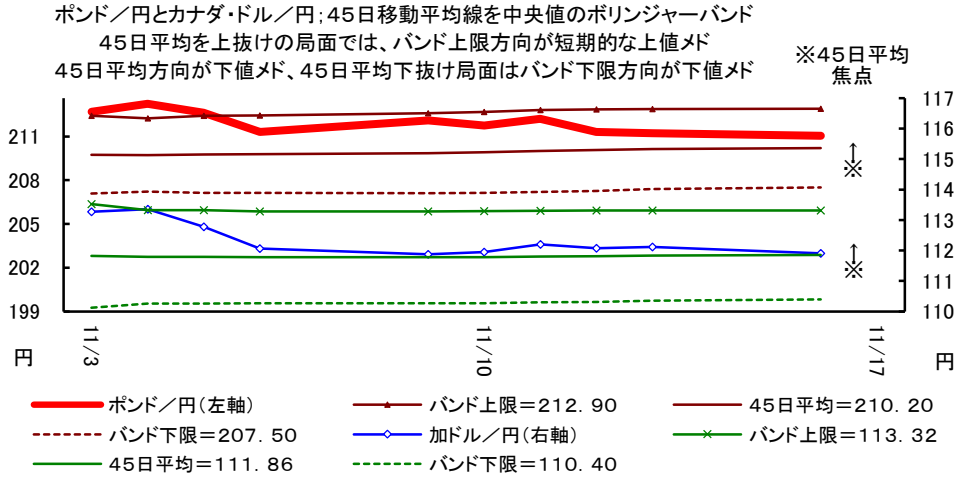


111.44円、豪ドル/円＝週足・一目均衡表の雲上限（先行スパン1）109.65円（今週は109.95円）、65週移動平均線107.84円、70週移動平均線107.01円など。

＜米AI株下落などの株価動向＞

米国株市場では11月上旬の米議会・中間選挙で上下院ともに野党・民主党が勝利して以降、AI・データセンター関連の規制強化等が懸念され、関連株を中心に下落となっている。前週はAI半導体大手エヌビディアの経営トップが不祥事で辞任となり、米国株の下落と日本株の連れ安が続いている。今週は17日にエヌビディアの決算発表が予定されている。

今週以降、米日株の下落が続くと、安全逃避でドルは底堅さが持続。円相場はリスク回避により、クロス円で円高・外貨安の圧力がかかりやすい。反対にAI株を始めとして悪材料が一旦の出尽くしとなったり、好材料が出てくると米日株が反発。全般ドル反落やドルの上値の重さが意識される一方、クロス円の主導により、リスク選好で全般円安に振れる余地が残されている。



お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。